

## 魅力ある福島高校の取り組み

第一回目の投稿で紹介した情報ビジネスコース。今回は進学コースについてご紹介いたします。



福島高校3年生 生徒会長  
前門充徒くん

皆さんこんにちは。前門です。今回で3回目の投稿になりました。よろしくお願ひします。

さて、福島高校には普通コースが2クラス、情報ビジネスコースが1クラスあります。第1回目では情報ビジネスコースを紹介させていただきました(今年で3年連続就職率100%を達成しました)。

今回は進学コースを紹介します。進学コースを担当している村上先生に話を聞きました。

### 村上先生のコメント

進学コースは、専門学校、短大、4年制大学等への進学、および公務

員合格を目的としているコースです。生徒たちは向学心があり、教える側も非常にやりがいを感じています。福島高校は小規模校ですが本校ならではのアウトホームな雰囲気、生徒と教師の間で進路の話や授業の質問などをいつでもすることが出来ます。

わたしは本校3年目ですが、この部分が進路実現において非常にプラスに働いていると思います。今年の3年生も今、それぞれの夢を叶えるために精一杯頑張っているところです。

わたしたちも全員合格を目標に全力でサポートしていきます。おわりに

わたしたちが進学や就職をするときに求められるのは学力です。今年度、生徒会は「自ら学び、表現力のある福高生」というスローガ

ンの下、活動をしています。

進学や就職でだけかと競争するときには、最新の知識やノウハウを持つていなければ、相手に勝つことはできません。そしてわたしたちは、それらの競争に勝っていかなければなりません。

福島高校の先生方は、熱心な先生方ばかりで生徒も先生方について行くよい学習環境があります。

また、平成24年度学校経営方針では、重点目標を確かな学力の向上としています。具体的には基礎学力の向上、進路実現のための学力・体力・コミュニケーションの向上を掲げています。先生方に専門的な知識をしっかりと教えてもらい、自分の力にしていくことが将来の夢に近づく一歩だと考えます。

### インタビュー



3年3組 (進学コース)

金川由希さん

わたしが進学コースに進んだ理由は大学に進学したいからです。進学コースの特色は、部活動と両立でき授業が楽しくて分かりやすい!!そして、分からないところは気軽に先生方に聞きに行くことができ、個別に指導が受けられるところです。

進路について先生方が親身になって相談に乗ってくださり、多くのアドバイスをいただけるのも福島高校進学コースの大きな特色だと思います。

前には、過去問題を解き、解説までしっかりと指導してください。特に国語や英語は、授業範囲では全く触れない単語や文法などの難しい問題も多く、けやきタイムで得る知識も多くありました。

進路については自分の進路に合ったコースを選択することができ、わたしは国立公立講座を選択しています。大学入試の2次試験の対策に加えて授業の補足をしてもらい、模試

### 串間の胃がんを

### お一人でも減らしたい

串間市民の皆さんお元気ですか？

いきなりですが、皆さんはヘリコバクター・ピロリ、またはピロリ菌(以下、ピロリ)ご存知でしょうか？

胃の中は消化のために酸がとても強い状態にあります。そんな所に普通は何も住めませんが、結核菌みたいなやつけなものに限り生き延びています。そして、約30年前に胃の中から今回のピロリが発見されました。その後、ピロリが胃や十二指腸潰瘍をはじめいくつかの病気の原因となることが分かってきました。何でこげな余計なものが入って来ると〜〜〜と思いますよね。まだ分からんことも多いですが幼少時の衛生環境の悪さとの関連が疑われており、日本人の50歳以上の80%位はピロリを持っているのではと言われ、逆に上下水道が完備した若い世代には少ないとされています。

「なぜなげ腐れもんは全部消してしまえ〜」というのが本音ですが、ピロリを持つ全員の方が病気になる訳ではなく、昨今の医療費高騰の問題もあり、その検査や治療(除菌治療と呼びます)で保険が効くのは現時点では、胃十二指腸潰瘍・胃の特殊なリンパ腫、特殊な血液の病気、そして早期胃がんを内視鏡(以下、胃力

メソ)で取った方のみで、それ以外は自腹での診療となっております。

今の病名で〜と目を引くのが最後の胃がんですね。ではなぜ、早期のがんを胃力メラで取りきれた人までがピロリを除菌するのか？実は、最近ピロリと胃がんの関係が取り沙汰されているんです。難しい説明は避けませんが、要はピロリが胃に住み着きしばらくして胃炎(=胃の炎症)が生じ、炎症が続くとそれを母地にしてがんが発生するという流れです。さらに悪い事に欧米より日本のピロリの方が毒性が強いとも言われています。よって、胃がんができた↓カメラで取れた↓またがんができないか↓ピロリはがんの引き金じや〜ならず消せ、となる訳ですね。

となれば、積極的にピロリがいるか調べ、いれば除菌するのが理想で、実際専門家の先生も勧めています。しかし、先ほどの通り保険診療がままならないのが現状なんです。ちなみに除菌治療は、胃薬1剤・抗生物質2剤を1週間服用し、1回目の治療で7〜8割方消えますが、消えなかつたときは抗生物質を1種類替えて2回目の治療となり、ここまでは保険でOKです(あくまで先ほどの病気の方向が対象ですが)。2回目の治療でほぼ大半の方は治療が成功しますが、それでもダメな方の3回目以降の薬の組み合わせは現在検討中の段階です。

ただ残念ながら、ピロリを消せば胃がんの発生がゼロになるわけではないので、元々ピロリのない方、また治療で消えた方も引き続きがん検診は重要です。検診ではバリウムか胃力メラか？と迷う所ですね。結論は難しいですが、バリウム検査は奥が深く難しいというのが実感です。ぶっちゃけ検査する者の上手い、下手がはつきりする検査や思ひます。

一方、最新の胃力メラの画質は驚くほど良く、上手い下手をある程度カバーしてくれるかなと思います。見逃し例もあるので過信は禁物です。苦痛や危険性ではバリウムに一步劣ります。最後にどちらを選ぶかはやはり皆さま次第ですね、無責任で御免なさい。ただ、今後はピロリの問題や診断機器の進歩で胃がん検診の姿が変わっていく可能性は大いにあるかなと思っております。

最後に一人でも胃がんを減らすためにもピロリは全部やっつけたいのが本音ですが、自費診療の壁が大きいのしかかります。当方、ヘリコバクター学会の認定医で当院は同学会の保険外診療可能施設に登録しており、人間ドックのような形で皆さまに少しでも安くピロリ診療が提供できないか模索中です。体制を整え串間市の胃がんを少しでも減らしたいと切に願う次第です。力不足ですが、皆さん今後よろしくお願ひいたします。